

# 自分の夢や希望、目標に向かって主体的に挑戦できる子どもに

## 高森町で目指す子ども像

## 第3回学校運営協議会で確認

◆第3回学校運営協議会が12月6日（金）に行われました。

今回は、小中3校の校長先生から自校の課題について報告していただき、協議しました。

第1は「高森町で育てたい子ども像」についてです。保育園から中学校卒業までにどのような子どもに育てていければいいのかを、もう一度みんなで考えたいということでした。

第2は、教職員の多忙化、多忙感、学校だけではなかなか解決していかない現状があるということ、そして学校、保護者、地域の関係が希薄化しており、子どもの育ちにも影響があるのではないかという危機感です。

◆高森町で目指す子供像については、**第7次まちづくりプランに基づく「高森町教育大綱 2020年4月」**があります。

### 「なりたい自分への挑戦」

高森町の子どもたちの未来は、地域の未来につながっています。高森町の子どもが健やかに成長し、子どもたち一人ひとりが「なりたい自分」を見つけられること、そんな子どもたちが育つ町が、しあわせタウン高森。

家族や地域との関わりの中で、自分の夢や希望、目標に向かって、主体的に「挑戦」できる子ども、そして主体的に生涯にわたって「挑戦」していく町民、「なりたい自分への挑戦」を基本理念とします。



◆子どもたち一人ひとりが「なりたい自分」を見つけられる

ようになることが大事であるとし、**自分の夢や希望、目標に向かって主体的に挑戦できる子どもが育つこと**を目指しています。

◆これを受けての**高森町「地域人材教育」計画**では、町の未来に関わる子どもたちが、自分たちの暮らす地域を知り、人とかわりあう中で、地域の課題に主体的な関わろうとする意欲やふるさと高森の未来を創造する「たくましさ」と「思いやり」をもって未来を切り開いていく人材の育成を目指し、目指す子ども像を掲げています。

ア：高森町を好きな子ども

イ：おとなへのあこがれを持つ子ども

ウ：社会や人の役に立つ大人になりたいと思う子ども

エ：夢や目標をつくり、自分の可能性を信じて努力を続ける子ども

オ：自分の具体的な将来像を描き、進路選択のできる子ども

◆今回の協議会で、**保育園での子どもの育ちをしっかりと理解していくことが大事であるという認識に立ち、小学校、中学校は幼保小中で筋の通った子どもの育ちの姿を確認して、それぞれの段階で具体的な「目指す子どもの姿」をグランドデザインに描いていくこと**になります。

今年度の学校自己評価、そして次年度のグランドデザインの中で、小学校は保育園での育ちを、中学校は小学校での育ちを意識して目指す子ども像を掲げていくことができているか確認したいと思います。

## 忙しい先生を助け、学校・保護者・地域が一体となって子どもを育てていくためには、相互理解が不可欠である

◆第2は、教員の多忙（多忙観）を何とかできないか、また学校・保護者・地域のかかわり方が希薄になってきているという現状があるということで「忙しい先生を助けるために知恵をしぼろう！」「学校・保護者（地域）が一つになるアイデアを考えよう」というテーマで熟議しました。この2点は切り離せないものだという認識を持ち、5つのグループで熟議を行いました。

### 忙しい先生を助けるために知恵をしぼろう！

すぐにできることがありそうです

#### 保護者は

- ・自分の子どもに責任を持つことが基本
- ・学校の声をしっかり聴く事が大事
- ・SNS 親の責任で 学校に持ち込まない
- ・小さなトラブルは自分で解決、担任を頼らない
- ・教師へ「サンキューレター」、感謝の気持ちを繰り返し伝える（教師のモチベーションアップ）

#### 地域は

- ・代行可能な事務を行う（ドリルの丸つけ・クラブ講師・陸上指導・給食指導・清掃指導など）
- ・環境整備、花壇づくりなどは地域でやる
- ・できるところで授業の助っ人
- ・集団になじめない子どもへの支援者となる
- ・学校に行って困っている子に寄り添う

#### 学校は

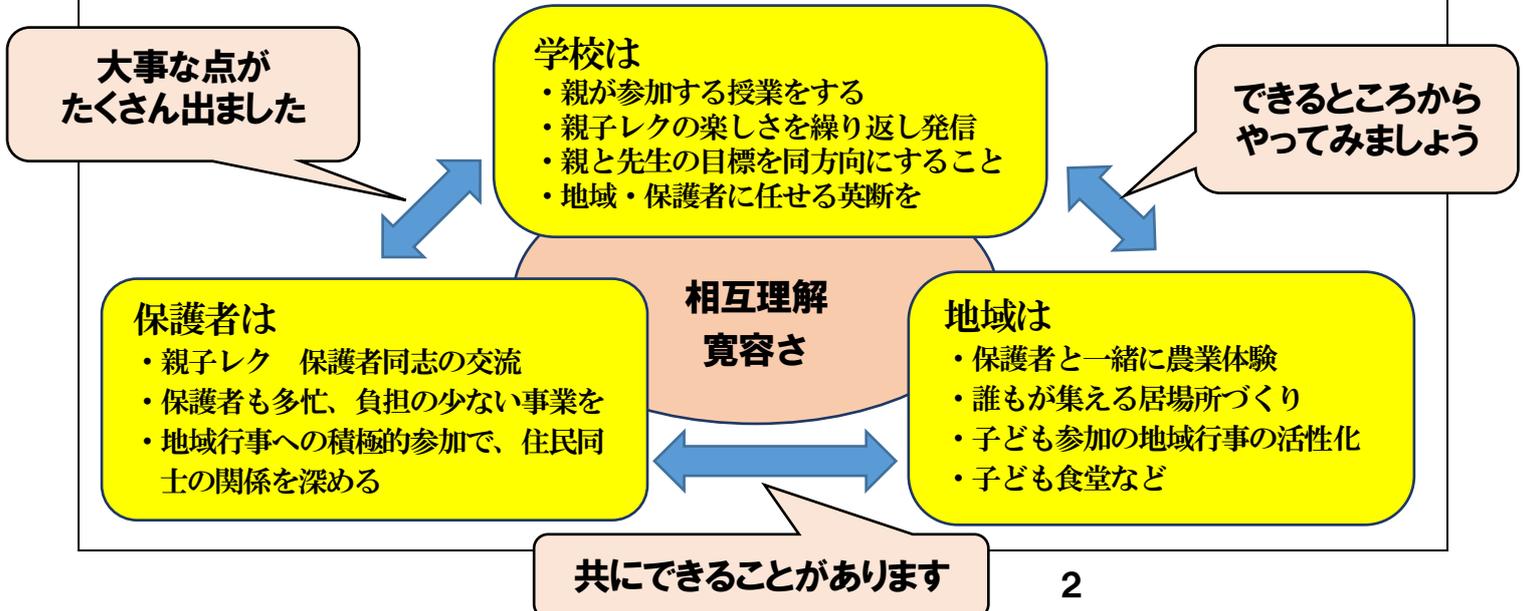
- ・保護者の学校へのハラスメント受け入れ拒否宣言
- ・学校外のトラブルは受け入れない勇気
- ・外に頼めることは頼む 校務の見直し、棚卸
- ・日課の工夫、朝行事の精選
- ・家庭学習の見直し

#### 町（行政）で

- ・すべてのハラスメントを許さない宣言をする
- ・学校になじめない子の少人数指導予算化等

### 学校・保護者・地域が一体となるアイデアを出そう！

◆「多忙」については、改善を進めていくうえでの前提となるのが三者、学校・保護者・地域の相互理解だということが見えてきました。相互に「寛容さ」が必要で、それが欠けてきているのではないかという指摘もありました。これができれば学校・保護者・地域は一体になれるはず。



# 地域協働学習で生き生きと学ぶ子どもたち(1)

◆高森町の小中3校では、地域の皆さんと共に学ぶ地域協働学習が進んでいます。また、学校支援ボランティアの皆さんとの学習も行われました。

## 伝統の「市田柿」を学ぶ・つくる



◆高森南小学校4年生の地域協働学習です。高森町が発祥の地である「市田柿」を地域の皆さんの指導を受けながら作業しました。

◆市田柿がどのようにして今日のような全国的ブランドとして流通していくようになったのか、上沼正雄さん、鉄男さん親子をはじめとして、その発展に尽力した人々については、事前に資料館「時の駅」でしっかりと学びました。



そして、10月中に校内の柿の木から収穫した柿を、11月1日、県南信農業農村支援センターの皆さん、市田柿農家の方、支援ボランティアの皆さんや保護者の皆さんとともに柿剥き作業をしました。県の方から、市田柿が出来上がるまでの工程について学んだあと、プールサイドでクラスごとに柿剥きで

す。慣れない手つきでピーラーを使って柿剥きをしていた子どもたちでしたが、慣れてくると次々と剥き上げ、クリップに挟んで干していきました。プールサイドには見事な柿すだれができました。この後、硫黄燻蒸を行いました。出来上がりが楽しみです。

子どもたちは体験活動を通して地元の宝「市田柿」を理解することができました。

## みらい懇談会 6年生「地域協働活動」の様子

○壬生町長との懇談から高森町のことで自分たちに何ができるのか考えた探究的な「総合的な学習の時間」での地域協働学習ですが、まず、6年生の活動の様子をお知らせします。

**高森南小6年1組**は、高森温泉「湯ヶ洞」を盛り上げようと考えて学習がスタートしました。子どもたちは役場産業課担当と相談をして学習を深めていく中で、湯ヶ洞を含めた上段地区の魅力を紹介することで高森町をアピールしていこうと考え様々なイベントを行いました。地元のプロの写真家や漫画家、高森ドームのドックランのイベント開催者、地元農家の方など多くの地域の方々の協力を得て、湯ヶ洞温泉と高森ドームで高森町をアピールするイベント（高森わんわんフェスティバル）を行い大勢の皆さんに集まってもらいました。





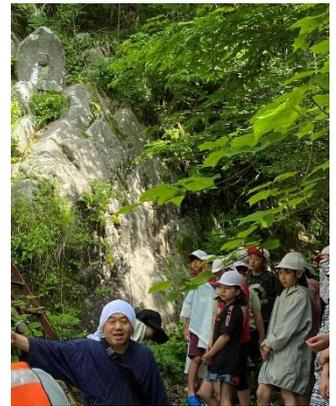
**6年2組**は、高森でも問題になっている竹を何とかしようと学習をスタートさせました。

竹林を整備していく中で伐採した竹を処分して竹パウダーにして利用しようと、役場産業課、吉田古城愛護会、ビリンジャーの皆さんとの協働で、吉田本城の二の曲輪の間伐作業を行いました。竹の種類や特性、吉田古城の学習をした後、竹を実際に伐採し、機械で竹パウダーにしました。竹パウダーはクラスで野菜栽培などに利用していく予定です。

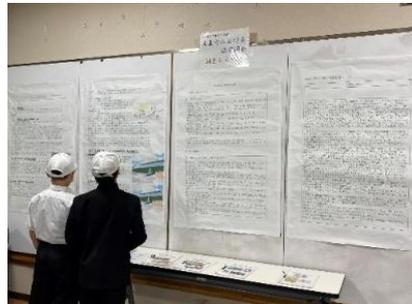


**6年3組**は、景勝「不動滝」をもっとPRしようと学習を立ち上げました。夏休み中に不動滝に多くの人に来てもらおうと、役場産業課担当、教育委員会担当、瑠璃寺のご住職などから話を聞き、不動滝に関わるクイズラリーを行ったり、使われなくなっていた建物を利用して催し物を行ったりしました。暑い

夏のひと時、清涼感満点の不動滝を多くの人に体感してもらうことができました。クマ出没の情報が流れる中、猟友会の皆さんなどの応援もお願いしての実施でした。



**6年4組**は、5年生の時から資料館「時の駅」での学習から満州移民（満蒙開拓）の学習を進めてきました。満州に渡った人たちの悲惨な生活の様子、満州の現地の人たちが受けた仕打ちなどから、平和であることがいかに大事かということ学びました。このことをたくさんの人に知



ってもらいたいと、学習のまとめを町の文化祭での展示や公民館ロビーでの展示を行っています。また、みらい懇談会の発表の様子をケーブルテレビで放送してもらい多くの人に平和の大切さを訴えていくそうです。



**高森北小学校6年生**は、4年生から続けてきたほたる学習の総仕上げとしてほたる太鼓を取り上げました。今年もプロの太鼓演奏家に指導を受けながらほたる太鼓の練習を重ねてほたる祭りで大観衆の前で発表しました。その後、天伯峡ホテル管理委員会委員長さんから、ほたる太鼓の歴史について詳しく学びました。平成10年のほたる祭りに、町教育委員会の有志の皆さんが演奏したのが最初だそうです。みらい懇談会の交流会の席で発表することになります。



に、町教育委員会の有志の皆さんが演奏したのが最初だそうです。みらい懇談会の交流会の席で発表することになります。

**南・北小学校6年生の「みらい懇談会」は2月10日（月）に高森町福祉センター大ホールで実施する予定です。**この他にも各学年で地域協働学習が展開されています。中学生のみらい懇談会の活動も含め次号で報告いたします。（館長）

